

租税教育実践レポート

震災復旧・復興の取組から税金について考えよう

登米市立佐沼小学校教諭 6学年 高橋 幸恵

実施年月日：令和3年5月28日 137名

1 実践計画・指導のねらい

多くの児童が、「税金」「消費税」という言葉や、自分たちも買い物をする際に消費税を払っていること、その消費税が10%であることなどを知っていた。しかし、その目的や用途については漠然としか分からない児童が多かった。そのため、「自分が払うお金は少しでも少ない方がいい」「消費税はない方がいい」という声も聞かれた。単元全体を通して東日本大震災を取り上げ、災害復旧に向けた国や県、市の取組について学習する中で、税金の必要性に気付かせ、税金についての正しい知識を身に付けさせたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○), こどもたちの反応 (●), 使用教材等 (□)
1	【東日本大震災の発生】 ・東日本大震災の発生や被害の様子、復旧の様子を知り、まちなん々の願いを話し合っって学習課題をつくる。	○ 被災した人々ほどの願いを持っていたでしょう。 ● 生活できる場所がほしい。水道や電気を復旧してほしい。 ● まちやくらしを元通りにしてほしい。 □ 使用教材名 「東日本大震災の記録」宮城県登米市
2	【東日本大震災への緊急対応】 ・東日本大震災発生直後の市や県、国の取組について資料から読み取り、相互に協力していることを理解する。	○ 地震発生直後の市や県、国の動きを調べましょう。 ● 市は災害対策本部を設けて、避難所を開設したり、被害状況を確認したりしている。 ● 宮城県や国は、被災地に自衛隊を派遣したり、必要な物資を送ったりするために動いている。
3	【復旧・復興に向けた国の支援】 ・復旧や復興の取組と国の政治の働きの関係を理解する。	○ 復旧や復興に向けて国が行った取組を調べましょう。 ● 復旧を進めるために第一次補正予算を成立させた。 ● 東日本大震災復興基本法や復興庁も設けられた。
4	【税金の働き】 ・市民の願いを実現するために税金が重要な役割を果たしていることについて理解する。	○ 復旧や復興のための費用はどこから出ているのでしょうか。 ● 募金だけでは足りない。国のお金。税金を使っている。 □ 使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」
5	【租税教室】 ・税金と自分たちの生活との関わりを知り、税金の重要性について理解する。	○ 自分たちの生活と税金との関わりについて考えましょう。 ● 税金がなくなると安心して安全な生活が送れなくなる。 □ 使用教材名 税のDVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」
6	【復興を願う市・市民の取組】 ・復興に向けて気仙沼市や市民が行った取組について調べ、市民の思いを知る。	○ 気仙沼市は復興に向けてどのような取組をしたか調べましょう。 ● 気仙沼市震災復興計画をつくって、住宅や道路、橋の整備、魚市場の建設などをした。 ● 新しいまちづくりにも税金が使われている。
7	【これからのまちづくり】 ・気仙沼市の現在の課題を捉え、どのような取組が行われているかを知って、これからのまちづくりについて考える。	○ 気仙沼市の現在のまちの課題は何でしょう。 ● 震災前よりも人口が減っている。気仙沼市移住・定住支援センターを作るなどして、魅力あるまちづくりを進めている。 □ 使用教材名 NHK for school「社会にドキリ」

【指導のポイント】≪1時間目≫

「東日本大震災の記録」を活用して登米市での被害状況や震災直後の生活の様子も示し、被災した人々の願いを考えさせた。

【指導のポイント】≪3時間目≫

気仙沼市の様子を定点カメラで撮影した画像を提示し、がれきが撤去され、道路ができ、建物が作られ、町が少しずつ変化していく様子を確認させた。児童は、復旧・復興を具体的な変化として捉えることができ、実現には多額の費用が掛かることに気付いていた。また、その費用がどこから出ているのかということに興味・関心を持つことにつながった。

【指導のポイント】≪4時間目≫

教科書や資料集、副教材を使って、税金の集められ方や使われ方について調べさせた。

【指導のポイント】≪5時間目≫

税務署の方をゲストティーチャーとして迎え、税金の基礎知識についての講話をいただいた。1億円のレプリカをお借りし、金額の大きさを実感させた。税金がなくなるとどのような社会になるのかが分かるDVDを視聴し、税金の必要性に気付かせた。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 東日本大震災の登米市での被害にも触れたことで、震災からの復旧・復興の過程を自分事として捉え、興味・関心を持って調べていた。
- ◎ 租税教室で税務署の方の話を聞いたり、DVDを視聴したりしたことで、税金がなくなると自分たちの生活がどうなるのかを考え、安心・安全な生活のために税金が不可欠であることに気付いた児童が多かった。
- ◆ 児童にとっては、消費税以外の税については実感を持ちにくいので、「どのようなことでどのぐらいの税を納めるのか」の例示ができると捉えやすくなる。